



NPO 法人 江戸城天守を再建する会

こんてんつ

江戸城天守再現アプリ来春 ……1
埼玉支部会が太田会長講演会 2
第1回名城巡りは忍城へ ……3
三浦先生特別寄稿(10) ……4
新規入会者・寄付者紹介 ……5
行事予定 ……6
新春お城びより講演会 1 ……7
新春お城びより講演会 2 ……8

令和元年 12 月 2 日 第 54 号

江戸城天守の再現 AR アプリを来春リリース 外国人観光客を支援する多言語ガイドとしてスマホを活用

皇居東御苑に残る巨大な天守台の上に江戸城天守がそびえていたらこのように見える。天守台にスマートフォンを向ければ、江戸城天守が姿を現す AR アプリを、来春リリースすることめざして、開発に着手しました。

1 千万円超の開発費の調達は、クラウドファンディングでは目標に届かなかったため、その後寄付金募集に切り替えました。当 AR アプリは、江戸城に残る文化財を多言語を使って解説できるので、かねてから文化庁に対し、文化財多言語解説整備事業の補助金交付を申請していたところ、事業採択の決定通知を受けました。

これらの結果、AR アプリ開発に必要な経費の最大 2 分の 1 強の補助金を受けることができることとなり、一方寄付金も順調に集まっている状況のもとで、いよいよ AR アプリの開発に踏み切りました。



18 日間「大嘗宮参観ツアー」を毎日実施 皇居東御苑をイヤホン・ガイド付きで案内、遠方からも参加

天皇陛下の即位に伴う「大嘗祭」の中心となる儀式「大嘗宮の儀」が 11 月 14 日夜から 15 日にかけて行われました。

その舞台となった大嘗宮が、11 月 21 日～12 月 8 日の 18 日間、一般公開されました。この期間は、門外に設けられた手荷物検査所を経て坂下門から入場し、大嘗宮見学後、天守台横を経由して梅林坂を下るといったコースに決められていました。

皇居東御苑散策の経験豊富な当会としては、この決められたコースに対応して、イヤホン・ガイド付きの「大嘗宮参観ツアー」を実施することにしました。しかも 18 日間休まずに行いました。



11 月 21 日（参観ツアー初日）の参加者

100 万人賛同署名運動推進中！

58,112 筆（11 月 27 日現在）



11月23日



11月24日



11月25日



11月26日

無線イヤホンの保有数や声の届く広さを考慮して、1回当たりの定員を20名としました。毎日、定員に近い数の方々が参加しました。

参加者には関西・中部・北陸等から家族連れで参加する方々も含まれており、大嘗宮に対する関心の高さを感じました。大嘗宮参観ツアーを行ったからこそ出会えた方々に入会してもらうことができました。

毎日の世話役の引き受け手を探すとともに、ガイドのほか、引率係、受付係、写真係などさまざまな役割を分担するというたいへんな作業に対して、多くの支部長が協力してくれたからこそ実現できた企画でした。

埼玉支部会が太田会長の講演会を主催

11月17日（日）に、太田道灌公18代子孫である太田資暁氏（当会会長）講演会を、埼玉支部会が主催しました。浦和コミュニティセンターにて行われ、51名が参加するというにぎわいでした。

演題は「文武両道の名将 太田道灌公の素顔」。

太田道灌公は埼玉県に多くの活躍した足跡があります。

終了後懇親会には22名が参加。「道灌大吟醸1・8L」があつという間になくなったそうです。



江戸御城印が2か月半で300枚を超える販売数

今年8月31日に江戸城御城印を発売してから、11月半ばまでに販売数が300枚を超えました。

種類は「登城記念」「来場記念」の2種類。「登城記念」は東御苑散策ツアーに参加して、天守台をご覧になった方が、「来場記念」は当会主催の講演会など各種イベントに参加した方がお求めになれます。（紙質のちがいによって700円、300円の2タイプ有り）

なお、大嘗宮参観ツアーの参加者の記念として「大嘗宮参観記念」（右画像）を特別に用意しました。

江戸城の場合は城址に決まった売り場があるわけではないので、このような頒布方法になっていますが、それにもかかわらず強いお引き合いをいただいたことに感謝しています。



第1回名城巡りツアーは埼玉県行田市の忍城へ

杉並第二支部長 花岡卓也

「江戸城天守を再建する会」の活動を活性化させ、新しいファンを増やすために第1回「名城巡り」を11月16日（土）に催行しました。

東京駅に集合し埼玉県行田市の「忍城」に参りました。当日は45名の方に参加頂き、大型バスで移動しました。当日の行程は①行田市郷土博物館②忍城③昼食（蕎麦会席）④さきたま史跡の博物館⑤さきたま古墳群でした。

会費は会員7,700円（一般8,700円）。各見学地では地元ガイドさんの詳しい説明がなされ、皆さん興味深く聞いていました。

参加者へのお土産は「江戸城トートバック」並びに「江戸城御城印」。加えて車中のビンゴ大会では空くじなしの行田名物「十万石饅頭」を差し上げました。

名城巡りの第2回を来春企画予定です。皆様奮ってのご参加をお待ちしております。



2020年セミナーを「歴史講座」と「講演会」の2本立てで

歴史講座は1月18日の「日本神話・日本書紀と古事記」からスタート

当会の会員になっていただくと様々な講演会やツアーに無料もしくは安価に参加でき、会員同士の交流を深めていただくことをめざして、2019年は毎月かかさずイベント（講演会やツアー）を開催してきました。

2020年のセミナーについては、引き続き月1回ペースで開催できるよう、これまでの経験を踏まえて「歴史講座」と「講演会」の2本立てに整理して、早めに企画を立てることになりました。

◆歴史講座：会員・支部長・役員に講師を務めてもらい年8回実施。引き続き会員参加費を無料に。

◆講演会：大学教員レベルの方に講師を依頼し年4回実施。会員参加費500円～1000円。

◎歴史講座の予定 →お申し込みは当会事務局へ

日時：2020年1月18日（土）・2月22日（土）2回シリーズ
13時30分～15時30分／千代田区の区民館（後日連絡）

演題：「日本神話・日本書紀と古事記」

講師：平川敏彦（大宮北支部長）

※会員無料

黒田涼氏の新刊書のご案内



「日本の城下町を愉しむ—郷愁に誘われ—」

著 黒田涼
絵 矢田勝美

東邦出版
5月1日発行
1760円（税込み）



「新発見！江戸城を歩く」

著 黒田涼

祥伝社
6月1日発行
1265円（税込み）



「江戸城再建」

作 黒川清作
監修 三浦正幸
※黒田涼執筆コラムを収録

小学館
12月12日頃発売
650円（税込み）

特別寄稿 『歴史に残る名城の天守』

<第10回:彦根城天守 その1>



広島大学名誉教授
三浦 正幸
(当会特別顧問)

譜代大名井伊家の居城であった彦根城（滋賀県）は、琵琶湖畔の独立した山の上に本丸を置く平山城である。比高25m、長さ750mほどの城山の周囲には平地が広がり、山麓に内堀、中堀、外堀の三重の水堀を廻らす。中堀は総石垣であるが、内堀は土居の上に鉢巻石垣、下部に腰巻石垣を築いた古式を見せる。外堀は大部分が埋め立てられ、一部のみに残っている。天守は本丸の奥隅に建ち、山下の城下町からはその雄姿が遠望される。

彦根城の天守は比較的に低い天守台の上に建つ三重三階の望楼型天守で、複合式に一重一階の付櫓（つけやぐら）を設け、さらに多門（たもん）櫓（多聞櫓）が続く。多門櫓の先端が天守への登開口になっている。また、天守台下には土蔵（金蔵）が接続しており、その土蔵を通して天守台の地下階段を上ると、天守一階に直接に入られる。その優れた造形美を評価されて、昭和27年に天守および付櫓・多門櫓は国宝に指定された。

彦根城天守の本体は、部材に残る墨書銘によると、慶長11年（1606）に建てられたことが分かる。天守の建築年代については異論もあるが、筆者の見解では、現存最古の天守は16世紀末、慶長元年前後の大山城天守（愛知県）で、彦根城天守は現存第二位の古天守である。以下、慶長13年の姫路城、同16年以前の松江城、同18年ごろの丸岡城（福井県）、同20年ごろの松本城（長野県）と続く。

慶長5年（1600）の関ヶ原の戦い以前の現存天守建築には、既に紹介した熊本城宇土櫓（熊本城古城（ふるしろ）天守を移築）と松本城乾小天守（松本城初代天守を改造）があるが、この彦根城天守は関ヶ原の戦いの前哨戦となった大津城（滋賀県大津市）の天守を移築改造したものであって、関ヶ原以前の天守を知る重要な遺構なのである。



彦根城天守西立面図 1/300 単位:尺
©着色:平成17年 山田岳晴

さて、関ヶ原の戦いの直前に、大津城主の京極高次は東軍徳川家康に与したが、周囲は西軍大名の本拠地であった。高次は四方をすべて敵に囲まれてしまい、大津城に籠城して1万5千といわれる西軍（毛利・立花）と対峙し孤軍奮闘した。西軍は大筒（大砲）を大津城へ撃ち込み、そのうちの1発が天守二階に命中して籠城中の女中二人が死傷し、高次の妹（秀吉側室の松の丸殿）が驚いて気絶したと伝えられている。高次は関ヶ原の戦いの前日に降伏開城したが、西軍の主力である毛利・立花軍を関ヶ原に遅参させた功績を家康に評価され、戦後に小浜城（福井県）へ加増転封している。

関ヶ原後に大津城は解体されたが、大津城天守については、『井伊家年譜』に「この殿守（てんしゅ）（天守）は終に落ち申さず、目出度き天守の由、家康公上意に依りて移さるる由」とあるように、落城しなかった目出たい天守と家康に称えられ、石田三成の佐和山城に替えて新たに築城された彦根城の天守として移築され、その際に四重（または三重）五階から三重三階に改造された。

なお、移築改造に際しては、大砲弾によって被害を蒙ったことを教訓にして、外壁を太鼓壁としている。太鼓壁とは、土壁を二重に造り、その間に瓦礫を詰めたもので、両側の薄い土壁を太鼓の皮に見立てて命名されている。着弾による衝撃を瓦礫の緩衝効果によって吸収させるもので、自動車のバンパーみたいなものである。日本現存最古の太鼓壁である。

さて、彦根城天守の一階の身舎は、平側（長辺）七間（この一間は6尺5寸、約1.98m、ただし東端一間は入側に開放）に妻側（短辺）三間であり、その周囲に約二間（あわせて10尺8寸ほど）幅の入側が回っている。一階平面の規模は、平側約十間半、妻側約六間半となる。入側の幅が正規の二間（13尺）にならず、中途半端な点は移築改造の結果と考えられる。大津城天守の一階は、身舎が八間に四間で、その周囲に一間幅の入側を回らせた平側十間、妻側六間であったと推定されている。一階入側の幅が一間では狭いので、彦根城では身舎の大きさを一間切り縮め、逆に入側幅を二間近くに拡大したものらしい。したがって、彦根城天守は一階が大津城天守より少し拡張されたことに



なる。なお、大津城天守の最上階（五階）は、関ヶ原以前の天守の通例どおり三間四方であったと考えられるが、彦根城の最上階（三階）は平側六間、妻側四間もあり、三重三階天守としては最大級である。

ところで、彦根城のように新たに築城された城において、その天守を新築するのではなく、他城の古い天守を移築改造して再利用することは、建築経費の大きな節減であるし、現代なら資源の再利用すなわちエコと評価されるであろう。しかし、当時はそれとは別のもっと重要な意義があった。彦根城の場合では、新築するよりも大津城天守を移築したほうが、戦略的効果が高かったからであろう。

大津城の城主であった京極氏は、かつて近江国（現、滋賀県）を支配した守護の後裔であり、豊臣秀吉が高次を大津城主に抜擢したのは、豊臣政権が近江を正統に支配するという大義名分を得るためであったとも評される。したがって、関ヶ原の戦いの論功行賞とはいえ、外様大名の京極氏を京都に近い近江から他所へ移封してしまった後、徳川政権の出先機関である彦根藩に近江の支配権が正統に移譲されたことを近江国の内外に示すために、旧主である京極氏の天守を活用したのではなかろうか。

家康が関ヶ原以降に行った政策には、それに類することがいくつか認められる。たとえば、かつての信濃守護の家系である小笠原秀政を松本城主に返り咲かせ、譜代大名としては破格の特例で松本城に五重天守を新築させているのも、信濃国の正統な支配権を徳川政権が有していることを示すためであったらしい。

また、名古屋城を新たに築城した際には、尾張守護家の府城であった清洲城（愛知県清洲町）の天守を移築して城内で最重要の隅櫓（現存する西北隅櫓、別称は清洲櫓）としたのも同様の意図があったとしてよからう。（次回につづく）



2020 年通常総会のお知らせ：3 月11日

2020 年通常総会の日取りが決まりました。3 月11日(水)午後12時に日本教育会館(千代田区)にて開催する予定です。

お城 EXPO 2019 に出展します(K-11 ブース)

お城 EXPO にブース(K-11)を出し、江戸城天守再建を全国のお城ファンにアピールし、署名をいただきます。

「江戸城御城印」(来場記念バージョン)／コミック「江戸城再建」第1集等を販売します。

今回は2日間の会期となります。会員の皆様、ブース当番のご協力をよろしくお願いいたします。



首里城復興支援

火災焼失した首里城には悲痛の想いです。当会として微力ながら復興支援するため当会主催イベントでは募金箱を設置いたします。また会員の皆様が支援される場合、那覇市にふるさと納税制度を活用した仕組みがあります。

◆「ふるさと納税制度を活用した仕組み」の利用法

「ふるさとチョイス 首里城」で検索 → 検索結果から「首里城 - ふるさとチョイス」と題するサイト名を選択 → 「沖縄のシンボル「首里城」再建支援プロジェクト」

会員のみなさまへ【お知らせとお願い】

①「年会費納入のお願い」タイミング

それぞれの会員の入会月に次年度の「年会費納入のお願い」をお送りします。「かわら版」を同封することがあります。

②会費や寄付金の決済はクレジットカードにも対応。

カード決済をご希望の方は当会ホームページ <http://npo-edojo.org/> からどうぞ。※希望者が次年度分も継続してカード決済できるよう準備中です。

③郵貯の自動引き落としご希望の方はご連絡を

会費のお支払い方法として、郵貯口座からの自動引き落とし(年1回実施)をご希望の方は事務局へご連絡ください。

④E メールアドレスの登録のお願い

E メールアドレスをお持ちの方は事務局宛にメールをお送り下さい。イベント等の情報をお送りします。

東京国際フォーラム「J-CULTURE FEST」連動企画「新春お城びより」2020年も実施

1月2日～5日、東京国際フォーラムの正月イベント「J-CULTURE FEST」に、当会が「新春お城びより」と題する講演シリーズと城郭パネル展を併催します。

また、1月2日・3日に開催される「正月テーマパーク」にも初めてブースを出します。こちらは子供づれの家族がメインターゲットのイベントですので、協同出席する「戦国魂」が、城郭・武将グッズだけでなく、いま子供に大人気の「ねこねこ日本史」のキャラクターグッズも販売します。

会員の皆様、当会ブースのお手伝いをよろしくお願いいたします。ブースはメインステージ横ですから、いろいろな日本の伝統芸能を眺めながら作業ができます。



■今後の行事予定(ボランティア協力をお願いします)

12/19(木)19時『江戸城再建』漫画家トークショー
12/21(土)～22(日) お城 EXPO(パシフィコ横浜)出展
1/2(木)～5(日) 新春お城びより(東京国際フォーラム) J-CULTURE FEST の一環で講演会、パネル展

<新春お城びより 日程>

1/2(木)～3(金) 正月テーマパーク (グッズ販売等)
1/4(土)～5(日) 道灌像横広場にグッズ売り場を移動

1/3(金)10時 黒田涼 講演

1/3(金)13時半 黒田ガイドによる散策ツアー

1/4(土)14時 万葉びとの旋律・講演&コンサート

1/4(土)17時 『江戸城再建』漫画家トークショー

1/5(日)14時 太田資暁・堀口菜純 講演

1/18(土) 歴史講座「日本神話・日本書紀と古事記」1

2/22(土) 歴史講座「日本神話・日本書紀と古事記」2

3/11(水) 2020 年通常総会

◆寄付の耳より情報:「日本の絆基金」寄付

「日本の絆基金」を利用して当 NPO 法人へ1万円以上ご寄付いただいた場合には、税制上の優遇措置が受けられます。翌年の確定申告で約4割が戻ります。詳細は当会ホームページの「寄付」の欄をご覧ください。

新春お城びより 特別講演会

1月3日(金)

講演: 午前 10 時～12 時
散策: 午後 1 時半～4 時

2020 年 1 月 3 日～5 日
東京国際フォーラム



← 講演
会の詳
細はこ
ちらを

講演「五輪と東京の歴史」 散策ツアー「1964 年五輪跡地と新国立競技場を訪ねる」



作家 黒田涼

大手新聞社で記者を 16 年務め、2011 年に作家として独立。

黒田涼が講師を務める午前 10 時開始の講演と、ガイドを務める午後 13 時半開始の散策ツアーの 2 部構成です。どちらかだけの参加もできます。

◆1 月 3 日 10 時～12 時「五輪と東京の歴史」

講演: 黒田涼 五輪で東京の何が変わったのか、変わることを期待されたのかを知るとともに、ゆかりの地、痕跡などについてお話しします。

◆1 月 3 日 (金) 13 時半～16 時

「1964 年五輪跡地と新国立競技場を訪ねる」
散策ツアーガイド: 黒田涼 実践編として、代々木公園と神宮外苑に 1964 年五輪の跡地を訪ね、新国立競技場等を見る散策ツアーを行います。

原宿駅[集合]／千駄ヶ谷駅[解散]

1 月 4 日(土) 講演: 午後 2 時～4 時

「♪万葉びとの旋律 レクチャー&コンサート♪」



佐藤 遼 (レクチャー)
和歌山大学国際観光学
客員特別フェロー



久保 順 (龍笛演奏)
世界的なフルート奏者



伊藤江里菜 (箏演奏)
NHK ワールドから世界に放映

万葉集より新元号の「令和」の由来を語り、「梅花の宴」を彷彿させるように『梅花の宴』から 5 曲を作曲し、それぞれ世界的なアーティストが、龍笛と箏(琴)で演奏します。続いて、日本書紀歌謡より 4 曲を演奏します。

1 月 4 日(土) 講演: 午後 5 時～7 時

ビッグコミック『江戸城再建』単行本第1集発売記念トークショー



漫画家 黒川清作

2019 年 6 月より「ビッグコミック」にて連載デビュー作「江戸城再建」開始



作家 黒田涼

大手新聞社で記者を 16 年務め、2011 年に作家として独立。

「ビッグコミック」連載中の『江戸城再建』単行本第1集の発売を記念してトークショーを開催します。本作を手掛ける漫画家・黒川清作と本作コラムの筆を執る作家・黒田涼が、江戸城天守を再建する意味や、江戸城の魅力などを語り尽くします。

※当日参加者は、単行本第1集を特別価格でお求めになれます。

※終了後にサイン会を実施します。

1 月 5 日(日) 講演: 午後 2 時～4 時

「東京の新歴史名所～ 太田道灌ゆかりの地や 浮世絵に描かれた名所案内」



太田資暁
太田道灌 18 代子孫。江戸城天守を再建する会会長。太田道灌顕彰会理事長。



堀口茉純
江戸歴史作家。新刊「新江百景めぐり」のエリア別名所案内執筆を担当。

二つの視点から選んだ江戸東京の新名所を紹介。太田資暁が太田道灌公ゆかりの名所を、堀口茉純が浮世絵が描いた頃の街並みや地形をしのべるスポットを紹介します。

新春お城びより 特別講演会



2020年1月3日～5日 東京国際フォーラムにて

インターネット申し込みはバーコードを読み込んで下さい

散策ツアー 1月3日 原宿駅集合／千駄ヶ谷駅解散			
3日 (金)	13:30～16:00 散策ツアー 「1964年五輪跡地と新国立競技場を訪ねる」	黒田 涼 (歴史紀行作家)	【コース】原宿駅[集合]ー代々木公園(1964年五輪選手村保存宿舎)ー選手村記念碑ー織田フィールドー代々木体育館(2020年ハンドボール会場)ー渋谷駅ー(銀座線移動)ー外苑前ー日本スポーツ協会新本部(記念碑など)ー新国立競技場ー東京体育館(2020年卓球会場)ー千駄ヶ谷駅[解散]
講演会 1月3日～5日 東京国際フォーラム ガラス棟5階G510会議室			
3日 (金)	10:00～12:00 講演 「五輪と東京の歴史」	黒田 涼 (歴史紀行作家)	東京は、1940 年幻の五輪、1964 年、2020 年と、3回の五輪開催が企画された世界でも稀有な都市です。それぞれの五輪で東京の何が変わったのか等歴史を知るとともに、ゆかりの地、痕跡などについて話します。
4日 (土)	14:00～16:00 講演&コンサート 「♪万葉びとの旋律 レクチャーコンサート♪」	レクチャー 佐藤 遼 龍笛奏者 久保 順 箏(琴)奏者 伊藤江里菜	新元号「令和」の由来は、「梅花の宴」で、友と詠み合った梅花の歌三二首の序文「初春令月、気淑風和」を典拠としています。その『梅花の宴』から5曲を作曲し、久保順の龍笛、伊藤江里菜の箏の演奏と共に、和歌山大学国際観光学客員特別フェローの佐藤遼が解説します。
4日 (土)	17:00～19:00 「ビッグコミック『江戸城再建』 単行本第1集発売記念トーク ショー」	黒川清作 (漫画家) 黒田涼 (歴史紀行作家)	小学館「ビッグコミック」連載中の「江戸城再建」漫画家の黒川清作と、巻末コラムを執筆している 黒田涼によるトークショー開催。江戸城天守再建の意味や江戸城の魅力などを語り尽します。トークショーのあとにはサイン会を行います。
5日 (日)	14:00～16:00 講演 「東京の新歴史名所～ 太田道灌ゆかりの地や浮世 絵に描かれた名所案内」	太田資暁 (太田道灌第18代子孫) 堀口菜純 (歴史作家)	東京江戸の新歴史名所を案内します。第一部が太田道灌公ゆかりの地めぐりです。江戸城を築城した太田道灌公は、東京に史跡を数多く残しています。続いて第二部では、歌川広重の『名所江戸百景』など浮世絵が描いた街並みや地形をしのべるスポットを取り上げます。
特別展(無料) 1月2日～5日 東京国際フォーラム ガラス棟1階太田道灌像横広場(東京駅側出入口)			
2日 ～ 5日	10:00～18:00 城郭パネル展示 「歴史に残る名城の天守」	執筆:三浦正幸 (広島大学名誉教授)	江戸城、安土城、豊臣大阪城、広島城、岡山城、熊本城宇土櫓、松本城乾小天守、犬山城、彦根城をそれぞれ順に取り上げて、天守の建築様式の変遷を追いかけてみます。

- 参加費(各回共通料金、1 講座あたり)
事前お支払い(12月20日振込まで):1000円
当日払い・12月21日以振込 1500円
- お申し込みはEメール、FAX、お電話で
下記 NPO 江戸城天守を再建する会までメール、FAX、電話
でお申込みのうえ、参加費を振込みください。なお12月21日
以降振込みの方はお手数ですが振込控を当日持参ください。

- 振込先
三井住友銀行光が丘支店(普)0851894
特定非営利活動法人 江戸城天守を再建する会 口座
もしくは
ゆうちょ銀行 00120-9-578881 NPO 江戸城再建
- 取消料
12月20日まで500円、21日以降は全額を申し受けます。



NPO法人 江戸城天守を再建する会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-5-7
神田中央ビル 505

◇電話 03-6423-1882 ◇FAX: 03-6423-1897
◇Eメール info@npo-edojo.org
◇ホームページ http://npo-edojo.org
◇Facebook http://www.facebook.com/npoedojo

